

ラトビア月報

【2013年5月】



2013年（平成25年）6月発行
在ラトビア日本国大使館
<http://www.lv.emb-japan.go.jp/>

主な内容

【内政】

- ・二重国籍取得等を認める改正国籍法が成立

【経済】

- ・欧州委員会によるGDP成長予測
- ・世論調査でのユーロ導入支持率が増加
- ・ロシア人資本家がラトビア・ビジネス銀行を買収
- ・ラトビアのシャドー・エコノミーの減少
- ・「新シルク・ロード」

【外交】

- ・ラトビアのOECD加盟手続開始が決定
- ・ドンブロウスキス首相の訪米
- ・アーボルティニャ国会議長の訪韓

【日本との関係】

- ・箏（こと）コンサートの開催

※「ラトビア月報」は、ラトビアにおける政治・経済状況等について、ラトビア政府発表や各種報道等の公開資料を取りまとめたものです。月別の時事情報として御参照いただければ幸いです。「在ラトビア日本大使館作成の資料によれば」といった引用は避けていただくようお願いいたします。

【内政】

◆二重国籍取得を認める改正国籍法が成立

9日、国会で国籍法改正法案が可決された。これにより、一定の要件の下でラトビア国民に二重国籍を認めることとなり、また、国内の非ラトビア国籍者の子供がラトビア国籍を取得する際の要件が緩和された。同法は、ラトビアとの二重国籍を取得できるケースとして、(1)ラトビア以外のEU、NATO、EFTA加盟国の国籍を取得したラトビア国民、(2)ラトビアとの二重国籍協定のある国の国民、(3)豪州、ブラジル、ニュージーランドの国籍を保持する民族的ラトビア人を挙げている。同改正国籍法は今年10月1日に施行される。

◆マスメディアの自由に関する調査でラトビアは55位

米国のNGOフリーダムハウス(本部:ニューヨーク)が197か国を対象に行った法律環境、政治の影響力、情報へのアクセスの度合い等からのマスメディアの自由度に関する調査の結果、ラトビアはガーナ、ナウル、パプアニューギニアと並んで55位とされた。(エストニアが13位、リトアニアは40位(日本と同順位)。最もメディアの自由度の高い国は、ノルウェー及びスウェーデン。)

◆第二次世界大戦戦没者慰霊式典

8日、ナチス・ドイツ降伏及び第二次大戦犠牲者追悼の日を迎え、リガ市内の軍人墓地で政府主催の戦没者慰霊式典が行われた。ベルズィンシュ大統領は、「ナチス・ドイツ降伏及び第二次大戦犠牲者追悼の日は、人々を分かつ日でなく、結びつける日とならなければならない」と述べ、第二次大戦で戦った退役軍人全てに向けて戦没者追悼式典に参加するよう呼びかけていた。

9日には、戦勝記念公園においてロシア語系住民を中心に対独戦勝記念行事が行われた。同記念行事は親ロシア組織「9.maijs.lv」が主催した。

ラトビアを含むEU諸国では、5月8日を対独戦勝記念日としているが、ロシアでは旧ソ連時代から5月9日を対独戦争勝利記念日としており、毎年、この時期には異なる政治的立場による集会がそれぞれ開催されている。

◆ラトビアの人口減少率は世界第6位

ワシントンの調査機関「Population Reference Bureau」(PRB)のデータに基き、200か国以上を対象にした調査で、ラトビアは、世界で6番目に人口減少率が高い国であるとされた。同調査結果によれば、ラトビアの人口は2010年から2050年の間に19.8%減少し、179万9千人になるとされている。(バルト三国では、リトアニアが8番目、エストニアは23番目にそれぞれ人口減少率が高い国とされた。)

◆春の洪水の被害額は260万ラツツ

4月に起きた春の洪水による被害額は263万ラツツ（約373万ユーロ）との試算結果が政府危機管理委員会に提出された。損壊したオグレ川のダム修復には180万ラツツ（約255万ユーロ）の費用が必要となるとされている。

【経済】

◆ラトビア国民のユーロ導入支持率は36%

民間調査会社 TNS Latvia 社が4月3日から23日にかけて、1,016人のラトビア国内の15歳から74歳の居住者を対象に行ったインタビュー調査によれば、過去6か月間でユーロ導入支持者数は10%増加した。

調査では、「どちらかといえば支持」（29%）、「強く支持」（7%）を合わせ合計36%のラトビア市民がユーロ導入を支持するとした。一方、62%はユーロ導入を「支持しない」としているが、この数字は2012年10月と比べ、9%減少している。

民族的ラトビア人、男性、高学歴者、月収300ラツツ（約425ユーロ）以上の高所得者、企業経営者、企業管理職、専門職業従事者がユーロ導入につき肯定的な態度を示している。その一方で、外国人、高齢者、低学歴者、低所得者、主婦、年金生活者は全般的にユーロ導入に懐疑的であった。

◆欧州委員会による経済成長予測

3日、欧州委員会は春季経済予測を発表した。ラトビアのGDPが2013年に3.8%、2014年には4.1%増加するとし、今年及び来年共にEU内で最も高い経済成長を記録する国とした。また、失業率及びインフレ率についても改善するとの見通しを示している（エストニア、リトアニアについても3%～4%の成長を今後2年間続けるとの予測）。

◆ビルクス財務相の欧州復興開発銀行年次会合出席

9日～11日、ビルクス財務相は欧州復興開発銀行（EBRD）の年次会合（於：イスタンブール）に出席し、2014年までのEBRD総務会副代表に選出された。チャクラバルティEBRD総裁との間で銀行の戦略的活動及び今後の政策等に関して協議を行った。EBRDは2013年及び2014年のバルト三国のGDP成長率は約3%になるとの予測を示している。

◆ラトビアのシャドー・エコノミーの減少

15日、ストックホルム経済大学リガ校はバルト三国のシャドー・エコノミー（故意に税務申告されない物やサービスの取引）に関する調査結果を発表した。これによれば、

2012年のラトビアのシャドー・エコノミーはGDPの21.1%に減少している(リトアニアはGDPの18.2%, エストニアGDPの19.2%)。ラトビアのシャドー・エコノミーは主に不法な賃金(42.9%)であり, 申告されない利益(39.5%), 申告されない労働者(17.6%)が続く。2010年に38.1%とされていたラトビアのシャドーエコノミーは2年連続で大きく減少している。

◆レール・バルティカ計画は実現可能

17日, ラトビア国鉄(Latvijas dzelzceļš, LDZ)のチーフ・エンジニアを務めるシメルマン氏は, バルト三国を横断するレール・バルティカ計画は, フィンランドからの貨物需要が存在し, 海路による貨物輸送料金が値上がりしているという事情から, 経済的に実現可能であると述べた。レール・バルティカ計画には全体で36億8千万ユーロが必要とされており, EU補助金から, 同費用の約85%が賄われるとされている。ラトビアはこの計画のために12億7千万ユーロの費用を分担することが求められている。

◆ロシア人資本家がラトビア・ビジネス銀行を買収

ロシア人資本家Andrey Vdovinは, ラトビア・ビジネス銀行(Latvijas Biznesa Banka)の株式を100パーセント購入し, 同銀行を買収した。新銀行は, 国内外の富裕層向けサービスに特化するとされている。ラトビア商業銀行データ協会によれば, Latvijas Biznesa Bankaは資産面ではラトビア国内25行のうち最も小規模。

◆EURO LCDs社のヴェンツピルス新工場が完成

17日, ラトビア西部クルゼメ地方の主要都市ヴェンツピルスにEURO LCDs社の液晶ディスプレイ生産工場がオープンした。6月から稼働開始の予定。同工場では, 欧州及び米国市場向けの液晶ディスプレイ及び光の強度に自動的に反応するガラス, 工業用ディスプレイ, 道路標識などが生産される。EURO LCDs社には投資ファンドのほか, スウェーデンの光学部品企業LG-Tec社なども出資している。

◆ラトビア商工会議所が輸出企業2社を表彰

20日, ラトビア商工会議所(LCCI)は, 輸出において優れた業績を残した国内企業に対して贈られる賞を, 木製窓・ドア製造業Stali社とフロアボール用防具製造業Blind Save社の2社に授与すると発表した。

◆国内道路網の維持管理計画

21日, 政府は2014年~2020年の期間に, 国内主要幹線道路を維持するために3億4,870万ラツツ(約5億ユーロ)を割り当てることを決定した。また, 同期

間の地方道路維持のために5億3,580万ラツツ（約7億6千万ユーロ）が割り当てられる。政府は、2014年～2020年の開発計画において、EU結束基金を活用しつつ、主要幹線道路の維持管理を行うとしている。

◆「新シルク・ロード」

24日、フレイザー米国空軍大將は、北部流通ネットワーク（NDN、ラトビアとアフガニスタンを結ぶ物流ルート）を「新シルク・ロード」に見立て、アフガニスタン・ミッション終了後の「新シルク・ロード」構築においてラトビアは主導的役割を担うと述べた。米国は2012年4月～2013年4月までの約1年間に、13,620トンの貨物をラトビア経由でアフガニスタンに輸送した。また、2012年6月に米国がアフガニスタンから米国への装備輸送を開始して以来、既に6,356トンが輸送されており、6月には10万個目のコンテナがリガ経由で米国に輸送される予定。

◆「環バルト海開発フォーラム」の開催

29日～30日の間、環バルト海地域の競争力、経済成長、インフラ開発を促進することを目的とした「環バルト海開発フォーラム」がリガで開催された。このフォーラムには、環バルト海地域の政界、財界、学会などから約4百人が参加し、地域の経済的競争力につき議論が行われた。同フォーラムのメイン・セッションには、バルト三国から各国首相も参加した。

◆ラトビア経済水域内の海底油田探索開始

Balin Energy社（ポーランドPKN Orlen社とクウェートKuwait Energy社の合弁）は、ラトビアの排他的経済水域内で海底油田の探索を開始しており、10日夜、掘削用プラットフォーム船「Ocean Nomad」は、ラトビアの西岸から約104キロに位置する掘削地点に到達した。掘削はバルト海海底より132メートルの深度に到達するまで約30日継続して行われる。同社はラトビアの経済水域内で油田探索のための掘削を行なう認可を2009年に取得している。

◆ラトビア国内の宿泊統計（第1四半期）

中央統計局のデータによれば、2013年第1四半期のラトビア国内宿泊施設への滞在者は301,300人で、対前年同期比5.9%増、このうち34.3%はラトビア国内居住者であり、65.7%が外国人であった。外国人旅行者の82.1%（162,500人）はリガに宿泊している。

外国人観光客の平均宿泊数は2.3泊であり、対前年同期比で5%増加している。また、近隣諸国からの旅行者数が増加しており、対前年同期比でベラルーシが41.8%、ロシアが24.6%、リトアニアが22.8%、エストニアが18.7%それぞれ増加

した。

◆メーカー別自動車登録台数

中央統計局のデータによれば、ラトビアでは2012年末時点で、618,274台の自動車が登録されており、メーカー別で見ると、119,254台（19%）がフォルクスワーゲン、90,051台（15%）がアウディ、51,151台（8%）がオペルであった。同データによれば、ラトビアで登録されている自動車のうち72%は1年以上前に生産されたものである。

◆新車登録台数は減少傾向

ラトビア自動車販売協会のデータによれば、2013年1月～4月の国内新車登録台数は3,778台で、前年同期と比べ283台減少している。今年4月には1,087台の新車が登録されているが、人気車種は、プジョー Bipper（55台）、トヨタRAV4（42台）、フォルクスワーゲン・ゴルフ（39台）等となっている。4月のメーカー別販売台数は、フォルクスワーゲン（179台）、トヨタ（143台）、プジョー（118台）の順であった。

【外交】

◆ラトビアのOECD加盟手続開始が決定

30日、OECD閣僚理事会は、ラトビアの加盟手続を6か月以内に開始することを決定した。リンケービッチ外相は、この決定に満足の意を示し、OECD加盟手続の開始は、ラトビアがEU及びNATO加盟以来成し遂げた外交政策の最優先事項の一つであることを強調した。また、ラトビア外務省は、「OECD加盟手続の開始は、ラトビアが最も経済的に発展した諸国のクラブに参加するという国家的目標に向けて一歩前進することを意味している。これは、外交政策上の努力及び行政機関全体と関係部門の専門家達による数年間にわたる徹底した努力のたまものである」との声明を発表した。

◆ドンブロウスキス首相の訪米

12日～16日の間、ドンブロウスキス首相は訪米し、15日、潘基文・国連事務総長と会談した。ドンブロウスキス首相は、ラトビアの経済情勢、ユーロ導入などについて説明したのに対し、同事務総長は、ラトビアがEU議長国となる2015年上半期はミレニアム開発目標（2000年に国連が採択。2015年までに貧困と飢餓の撲滅、ジェンダーの平等の推進、環境の持続可能性の確保等を達成することを目標とする）の評価、国連の長期的開発目標に関する議論が行われるため、ラトビアの役割は重要であると述べた。

◆バルト三国首相非公式会合

29日～30日の間、リガで第15回バルト開発会議が開催され、30日にバルト三国首相非公式会合も行われた。3か国首相の間で、ビサギナス原発計画、地域LNGターミナル計画、レール・バルティカ計画等につき協議された。ビサギナス原発計画に関しては、リトアニア首相から、7月1日までに専門家による技術的調査の結果が公表できる旨説明があり、ラトビア、エストニアの両首相は、原発建設に当たっては経済性が最重要との見解を示した。3か国首相は、今後も経済面から見たビサギナス原発計画の妥当性につき調査を継続することで一致した。

◆ベルズインシュ大統領のトルクメニスタン訪問

13日～15日の間、ベルズインシュ大統領はトルクメニスタンを公式訪問し、バルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領と会談した（外相、運輸相、経済相、保健相等同行）。ベルズインシュ大統領より、2015年上半期のラトビアEU議長国時にEUとトルクメニスタンの更なる関係強化を図りたいと述べ、バルディムハメドフ大統領は、今年5月に開通したトルクメニスタン・カザフスタン間の鉄道などを活用した物流活性化について取り上げ、アシガバット・リガ間に直行航空便を就航させることを提案した。両国政府間のテロ・組織犯罪・薬物撲滅等に関する協力協定、教育分野における協力協定が署名された。ベルズインシュ大統領は、トルクメンバシ（アシガバットの北西約500キロ）にある港湾を視察したほか、同市にある墓地（ウルマニス第4代ラトビア大統領の埋葬地）を訪れた。

◆ベルズインシュ大統領のポルトガル訪問

27日～29日の間、ベルズインシュ大統領はポルトガルを訪問し、カヴァコ＝シルヴァ大統領、コエーリョ首相等と会談した。両国は、EU・ユーロ圏情勢、両国経済情勢、EU東方パートナーシップ、エネルギー供給源分散等について意見交換し、ポルトガルは、ラトビアのOECD加盟への支持を表明した。

◆アーボルティニャ国会議長の訪韓

21日～25日の間、アーボルティニャ国会議長は、ラトビア国会議長として初めて韓国を公式訪問し、姜昌熙（Kang Chang-hee）国会議長と会談した。両国会議長は、政治・経済分野のみならず、教育・文化分野における関係強化の必要性で一致した。また、アーボルティニャ国会議長は鄭烘原（Chung Hong-won）国務総理（首相）との会談を行い、二国間関係、ラトビアの経済状況等について説明し、ラトビアのOECD加盟への支持を要請した。アーボルティニャ国会議長は滞在中にサムスン電子社等を訪問した。

◆ネチャス・チェコ首相の来訪

17日、ネチャス・チェコ首相はラトビアを公式訪問し、ベルズィンシュ大統領、アーボルティニャ国会議長、ドンブロウスキス首相等と会談し、二国間関係、EU・ユーロ圏情勢等に関して意見交換を行った。ネチャス首相からは、ラトビアのOECD加盟及びユーロ導入への支持が表明された。両首相は、ラトビア・チェコ・ビジネス・フォーラムに出席した。

◆リンケービッチ外相のウズベキスタン訪問

15日～18日、リンケービッチ外相はウズベキスタンを訪問し、カリモフ大統領、カミロフ外相、ベルディエフ国防相、ガニエフ対外経済関係・投資・貿易相等と会談した。二国間関係、EUウズベキスタン関係、アフガニスタン情勢等に関して意見交換が行われ、経済（物流、観光）及び文化分野における関係強化で一致した。

◆レンデルス・ベルギー副首相兼外相の来訪

10日、レンデルス・ベルギー副首相兼外相がラトビアを訪問し、リンケービッチ外相と会談した。両者は二国間の貿易額増大に満足の意を表明するとともに、更なる二国間関係強化を期待し、また、ベネルクス・バルト諸国における協力及びその他国への拡大の可能性についても協議した。

◆マリへの経済協力

政府は、13日、マリに対し2万ユーロ援助することを閣議決定した。

【日本との関係】

◆箏（こと）コンサートの開催

22日、リガ市内のコンサートホール（Ave Sol）において、当館主催により文化庁文化交流使で、箏曲演奏家の山路みほ氏によるコンサートが開催された。山路みほ氏は地唄を含む5曲を演奏し、その後、ラトビアの伝統楽器で箏に似た弦楽器「コークレ」の演奏グループBalti（バルティ）とのコラボレーションにより、日本の「さくらさくら」やラトビアの民謡など6曲が合奏された。息の合った完成度の高い合奏に、満席となった会場から惜しめない拍手が贈られた。

【その他】

◆リガ・マラソン2013

19日、リガ・マラソン2013が開催され、約2万2千人が参加した。ケニア国籍

の Duncan Koech 選手が大会新記録の 2 時間 15 分で優勝した。今大会は、真夏のような暑さもあり、前年よりも完走者数は少なかったものの、同大会組織委員長は、全体として大会は成功であったと評価した。リガ・マラソンは 1991 年から開催されており、国際陸上競技連盟 (IAAF) が定めた世界の主要ロードレースを格付けするラベリング制度において、現在北欧で唯一ブロンズラベルを獲得している。

◆セバスタバ・プロテニス・プレイヤーが引退を表明

ラトビア人女子プロテニス・プレイヤーのセバスタバ選手 (ラトビア西部リエパーヤ出身) が 23 歳で引退することを表明した。セバスタバ選手は、引退の決断に至った理由として過去 3 年の様々な病気と怪我を挙げている。セバスタバ選手の自己最高ランクはシングルス世界第 36 位 (2011 年 1 月 31 日)。

以上

2013年5月の主な出来事

日付	【内政】	【外交】
1日		
2日	ドンブロウスキス教育・科学相就任	
3日		
4日	第23回独立回復（1990年5月4日）記念日	
5日		
6日		
7日		
8日	対独戦勝（1945年5月8日）記念日	
9日	改正国籍法が成立	ビルクス財務相トルコ訪問（～11日）
10日		レンデルス・ベルギー副首相兼外相来訪
11日		
12日		ドンブロウスキス首相訪米（～16日）
13日		ベルズィンシュ大統領トルクメニスタン訪問（～18日）（リンケービッチ外相、マティース運輸相、パブリュツ経済相、ツィルツェネ保健相同行） ヤウンゼメ＝グレンデ文化相訪中（～15日）
14日		
15日		リンケービッチ外相ウズベキスタン訪問（～18日）
16日		
17日		ネチャス・チェコ首相来訪
18日		
19日		
20日		
21日		アーボルティニャ国会議長訪韓（～25日）
22日		ドンブロウスキス首相欧州理事会出席
23日		
24日		リンケービッチ外相エストニア訪問
25日		
26日		
27日		ベルズィンシュ大統領ポルトガル訪問（～29日）
28日		
29日		アンシブ・エストニア首相来訪 プトケビチュウス・リトアニア首相来訪
30日		コラツェアン・ルーマニア外相来訪 OECD閣僚理事会でラトビアの加盟手続開始が決定 バルト三国首相非公式会合（リガ）
31日		

ラトビア主要経済指標

1ユーロ = 0.702804 ラツツ (ラトビア中銀レート)

GDP

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	出典
名目GDP	百万ラツツ	16,085	13,070	12,784	14,275	15,520	-	中央統計局
国民一人当たりGDP	ラツツ	7,386	6,102	6,096	6,939	7,629	-	中央統計局
GDP実質成長率	%	▲ 3.3	▲ 17.7	▲ 0.9	5.5	5.6	-	Eurostat

財政収支, 政府債務残高

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	出典
財政収支	百万ラツツ	▲ 682	▲ 1,277	▲ 1,040	▲ 489	▲ 194	-	中央統計局
財政収支対GDP比	%	▲ 4.2	▲ 9.8	▲ 8.1	▲ 3.4	▲ 1.2	-	中央統計局
政府債務残高	百万ラツツ	3,182	4,803	5,695	6,028	6,309	-	中央統計局
政府債務対GDP比	%	19.8	36.7	44.5	42.2	40.7	-	中央統計局

失業率, インフレ率, 月額平均賃金

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	出典
失業率	%	5.8	12.8	13.9	11.5	10.5	9.6	中央統計局
インフレ率	%	15.4	3.5	▲ 1.1	4.4	2.3	0.8	中央統計局
平均賃金(グロス)	ラツツ	479	461	445	464	481	-	中央統計局
平均賃金(ネット)	ラツツ	350	342	316	330	343	-	中央統計局

海外直接投資 (FDI)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	出典
海外直接投資残高	百万ラツツ	5,711	5,673	5,752	6,578	7,038	-	中央銀行

貿易統計

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Q1	出典
輸出(FOB)	百万ラツツ	4,429	3,602	4,695	5,999	6,898	1,635	中央統計局
輸入(CIF)	百万ラツツ	7,528	4,710	5,912	7,719	8,698	2,035	中央統計局
貿易収支	百万ラツツ	▲ 3,099	▲ 1,108	▲ 1,217	▲ 1,720	▲ 1,800	▲ 400	中央統計局